

今週の園芸相談事例です。

Q：ネギのサビ病が発生しているが、どうしたらよいか？

A：晩秋や春先～梅雨時期にかけての湿度が高く、気温が冷え込んできた時期にネギ類に発生を見ます。サビ病菌はネギやタマネギ、ニンニクなどに寄生するので年間を通して罹病の危険性があります。また窒素過多や、逆に肥料不足、圃場排水不良などにより健全な生育が確保されていないと発生しやすくなります。

防除は発生予防剤の散布をします。すでに罹病している部分は回復しませんが、新しく伸長して来る葉への罹病を防ぎます。薬剤は以下のとおりです。

ネギの登録薬剤名	使用濃度	使用時期と回数	備考
ストロビーF	2,000倍	7日前まで・3回	(注)展着剤加用のこと。 (*)価格がもっとも安いので、予防的な散布に活用すると良い。
アミスター20F	2,000倍	3日前まで・4回	
バイレトン水和 (*)	600倍	14日前まで・3回	
ラリー水和	2,000倍	7日前まで・3回	

Q：コシヒカリの一発肥料を野菜に使いたいが可能か？

A：露地栽培の場合は特に問題ありません。水稻肥料と園芸肥料の大きな違いは、水稻は窒素をアンモニア態で吸収、園芸作物は硝酸態窒素の形態で吸収することとカリ成分が水稻の場合多くは塩化カリ、園芸の場合は硫化カリが使用されています。アンモニア態窒素は圃場に施用された後、化学変化(硝化作用)により硝酸態に変化しますので問題はありません。ただ、気温が低い時期はこの変化が緩慢になるので効きが遅くなります。塩化カリは土中にcl(クロール分)が蓄積し、団粒組織を壊すため土を硬化させると言われています。その意味で、ハウスなど施設内で多用することは好ましくありませんが、露地栽培の場合はcl(クロール分)が雨などにより流れさるため殆ど問題にしないでよいと思われます。

Q：ダイコンに空洞が発生した。

A：ダイコンの根部の空洞は生理的なものと病的なものがあります。生理的なものとしては、ダイコンの下半分に発生し易い。これは、気温の低下や寡雨による乾燥条件からの降雨などにより、急激にダイコンの肥大に適した環境になり、肥大の速度に細胞分裂などが追いつかず空洞が発生します。また、ホウ素の不足、もしくは土壤の乾燥条件のもとでホウ素が十分に吸収されない場合も空洞が発生します。この場合、空洞部分が薄茶色に変色していたりします。病的なものとしてはダイコン芯腐れ病があります。これは根部にバクテリアが進入し組織を犯し、細胞を壊すことにより空洞が発生

します。この場合空洞内部は黒色から褐色に変色します。また、空洞は大根の上から下まで入っていることが多い。収穫後根の先端を切り落とすときに切り口に注意して下さい。病気に犯されていると切り口の中心部に黒い点を見る事ができます。

Q：秋作パレイシヨの葉が枯れてきた。

A：暖冬化傾向の中で、秋作パレイシヨの栽培が多くなってきています。葉の枯れこみは霜に当たる事により進みます。通常 2 回程度霜にあたった頃を収穫の目安とします。病的な原因による葉の枯れこみは殆どの場合、春作と同じべト病によるものです。10 月頃の気象が梅雨の時期に似ているのでかかり易い条件となります。特に窒素の高い肥料を使っていると、組織が柔らかくなっており罹病し易くなります。また、春作にべト病が見られた圃場近くでは特に注意が必要です。今回の事例では、春作のパレイシヨ株を乾かして、スイカの敷き藁にかぶせて使用し、その場所で秋作パレイシヨを植えたため、全滅状態となりました。

Q：ハウスのトマトに温室コナジラミが多発している。

A：近年の温暖化傾向で南方の害虫が本県でも多発しております。温室コナジラミも園芸作物ばかりでなく雑草にも寄生しています。特にハウス内の雑草はもちろん、ハウス周辺の雑草でも繁殖していますので、圃場内外の草刈が重要です。また、買い入れた花鉢に付着して持ち込まれるケースも少なくありません。防除薬剤はアディオン乳（3,000 倍、前日まで、3 回以内）アプロード水（2,000 倍、前日まで、3 回以内）、モレスタン水（2,000 倍、前日まで、3 回以内）等があるが、いずれも卵に対する効果は低いので、一定期間において 3 回連続散布する必要があります。

Q：ミディトマトの実が割れる。

A：裂果の発生メカニズムは良くはわかりませんが、水分の過剰吸収や低温遭遇による果実の膨圧により発生が助長されます。発生時間帯は夜明け前がもっとも多く、果実面の結露が引き金になるという観察があります。対策の第一は、ハウスに侵入する周辺からの水です。地下水位をできるだけ低く、且つ安定するよう明渠・暗渠を整備して下さい。また、夜明け前の低温、結露防止のためこの時間帯の簡易暖房を行うと効果的です。

Q：昨年買ったダイコンの発芽が良くなかった。

A：種子は保存状態で発芽能力が大きく変わります。高温と高湿条件に晒されていると発芽能力は急激に低下します。大雑把に言って通常大きな種ほど保存が難しくなります。大根などアブラナ科の植物の種子は保存がし易いほうです。使用残りは密封し冷蔵庫や冷凍庫に保存します。種子は温度が低いほど長持ちします。しかしマイナス 20 を下回るような高性能の冷凍庫は発芽に影響の出る可能性がありますので注意してください。